

令和4年度～令和5年度

医療機関における電波利活用推進のための 取組事例集 II

(ヒヤリハット事例編)

令和6年8月

はじめに

本事例集は、全国11地域に所在する総務省総合通信局及び沖縄総合通信事務所が主催する「医療機関における電波利用推進協議会」(一部地域では名称が異なります)における活動の一環として、医療機関における電波利用に関し、これまでご経験された各種の事象について、各地域の医療機関からお寄せいただいた事例を取りまとめたものです。

各医療機関において、同様の事象が発生した際のご参考としていただくとともに、電波を利用する医療機器を安心・安全にご利用いただくための留意事項としてご参照いただけますと幸いです。

なお、医療機関における電波管理については、電波環境協議会の「医療機関において安心・安全に電波を利用するための手引き」及び「医療機関における「電波の安全利用規程(例)」」、周知啓発用資料も併せてご参照ください。

電波環境協議会ホームページ：<https://www.emcc-info.net/>

医用テレメータに関する不具合事例 … 3

無線LANに関する不具合事例 … 5

医用テレメータに関する不具合事例

病室扉による医用テレメータの電波の遮蔽

医療機関名:久留米大学医療センター (福岡県久留米市)

事例の内容	2022年7月、COVID-19隔離病棟での医用テレメータの電波不良について、アンテナの追加を実施した。
背景・要因	COVID-19隔離病棟においては、看護師詰め所にセントラルモニタを設置し、監視を実施していた。詰め所から病室前の廊下までは二重扉で隔てられ、病室の扉も常時閉ざされていたため、テレメータの電波が減衰しやすい状況であった。
具体的な解決方策	セントラルモニタから同軸のケーブルを天井裏へ通し、病室前廊下の中央付近へアンテナを設置した。

無線LANに関する不具合事例

気象レーダーなどの外部電波による無線接続への干渉

医療機関名:長崎大学病院 (長崎県長崎市)

事例の内容	ネットワーク更新以前は5GHz帯のチャンネル「W52」「W53」「W56」をすべて利用していたため、レーダーなどの電波を検知した場合、DFS (Dynamic Frequency Selection)機能が作動して無線接続が切れる現象が起きていた。
背景・要因	気象レーダーや港からのレーダーが要因となっていた。
具体的な解決方策	ネットワーク更新時にDFSの影響を受けない5GHz帯のチャンネル「W52」のみを基本的に利用することにした。
措置状況を踏まえた気づきの点など	2022年2月の5GHz帯への更新にあたり、メーカーでの調査をして頂いた。その際にレーダー干渉があることを確認していたが、「W53」と「W56」において実際干渉発生を確認したので、チャンネルを「W52」のみに限定したところ、症状が改善した。